

今月のことば

正義は
時として
恐ろしい
武器になる

(小池秀章 7・8月)

龍谷大学非常勤講師

小池秀章
こいけひであき

「正義」は時として、恐ろしい武器になります。人は、自らの「正義」を絶対的なものだと思い込み、それにとらわれた時、その「正義」を振りかざし、容赦なく他人を攻撃します。そして、そこに、心の痛みというものはありません。

他人を傷つけてしまった時、通常なら、少しは心の痛みを感じるはずですが。しかし、自らの「正義」にとらわれた時、その「正義」に反するものを悪と決めつけ攻撃することが、当然の行為のように思ってしまうのです。

「戦争は、正義と正義が戦っている」と言った人がいます。お互い自らの「正義」にとらわれて、争い合っているのが戦争なのです。そして、「正義」を振りかざした時、相手を傷つけることに対する心の痛みが、麻痺してしまうのです。

仏さまの慈悲の心とは、「他人の苦しみ悲しみに、共感するところから出て来る慈しみの心」だと説かれます。皆が、仏さまと同じ慈悲の心を持つことができれば、戦争や争いは無くなるはずですが。しかし、自己中心の心から離れない私たちが、慈悲の心を持つことは、不可能でしょう。

親鸞聖人は、そのような私たちに「阿弥陀さまの慈悲の心に出遇ってください」と願ってくださいます。私たちは皆、阿弥陀さまに心配をかけている、煩惱だらけの凡夫なのです。阿弥陀さまの慈悲の心に出遇った時、自分の「正義」にとらわれて、他を傷つけてしまっていることに対する心の痛みを、思い出すことができるのだと思います。

合掌